

お父さんも SHASEN の卒業生。
お父さんの弟さんも卒業生。
お父さんの息子も卒業生。
営業写真館「日本館」は来年で 100 年。
100 年も続く秘訣は「笑顔」

赤澤 啓介 × 祐介 × 良介

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.9

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY

啓介さんは日本写真専門学校の講師であり
写専会（同窓会）の会長もされています。
近所のソフトボールチームのお世話もされているとか。
啓介さんは言う
「助けな、助けてくれへん」



いろいろとお話をさせていただき、爆笑につく爆笑であっという間に時間が過ぎました。お酒の話が一番盛り上がり、祐介さんも「たしなむ程度です」これも相当イケル方です。ずーっと笑いながら聞いていた良介さんもなかなか呑める顔付でした。

大阪・生國魂神社のすぐ近くにある営業写真館「日本館」をゴールデンウィークに訪ねた。「忙しい中をよろこび」（大爆笑）赤澤啓介さん（53）の一発目のギャグである。昭和58年写真卒業の啓介さんに写真時代の思い出は？と質問すると、「京都の大原に撮影実習したんですよ、あれは楽しかったなあ」「大原女の美人ですか？」「いや、普通の農家のおばちゃんです。しわくちやの」（爆笑）二発目のギャグです。弟の祐介さん（50）は写真の思い出と言えば「葛城高原でしたよ。きれいな景色でした。あの撮影で写真が好きになりましたね」兄弟でも視点がまったく違う。「写真は祐介さんの方が断然うまいと評判ですが」啓介さんがすかさず「そうです」（爆笑）ご家族の趣味は？には「即答！お酒です」（笑）この回答も早い。酒を飲むと愉快になる。愉快になると笑顔がいつぱいになる。笑顔がいつぱいになる

と、人は幸せになる。ご家族で近所の居酒屋によく出かけるそうです。チャップリンの言葉に「下を向いたら、虹を見つけることは出来ないよ」赤澤家はいつも前向きに上を向いているのでしょ。だから100年も続いて来られたのでしょ。週に数回、行くという居酒屋では笑いがあれば一枚のお皿でも大宴会。お酒はこんな飲み方をしたいものです。「日本館」では学校アルバム、スタジオ撮影とやっていますが、「いくたまさん」で親しまれる生國魂神社の本殿参道の撮影は最高の誇りある仕事です。日本書紀にも出てくるほど大阪では最も古い神社です。悠久の歴史を刻む生國魂神社にて新たな門出を美しく溢れる笑顔で撮影するポイントが啓介さん、祐介さん、そして長男の良介さん（28）の笑顔でしょうね。これから先、150年、200年と「笑うから楽しい、笑うから幸せになる。この精神でみんなの幸せを膨らませていって下さい。（は）」